

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL (3404) 7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

病気や障害があつても、安心して暮らせるために

医療・介護の現場から

渋谷区政をかえよう



渋谷区議会福祉保健委員会委員長
日本共産党渋谷区議会議員団

団長 すがの茂

(代々木健康友の会顧問)

都心で生きる高齢者は大変
保土田 私以前働いていた東葛病院のある流山市では、家族と同居の高齢者が多いのですが、渋谷区は高齢者だけの世帯か一人暮らしが多く、ヘルパーなど社会的なサービスがより必要だと感じます。

議団は昨年、区民のみなさんに区政アンケートにご協力していただきました。区政で特に力を入れてほしいことの第一は「高齢者福祉」でした。

渋谷区では、施設希望者が依然として多い。家族状況などで、施設を希望せざるを得ない。区内で3つめの特養ホームが去年オープンしましたが、さらに460人の待機者

渋谷区の高齢者が直面している困難と、その解決のために区政に求めることを代々木健康友の会顧問でもある、すがの茂区議会議員と話しました。



青山訪問看護ステーション
ケアマネージャー

松永 薫 (看護師)



代々木病院 作業療法士
保土田朝子 (本紙編集委員)

取り上げられたサービス

松永 06年4月の介護保険制度変更で福祉用具を借りられなくなった人が出ました。制度実施ギリギリまで方向性が出ず、利用者さんは本当に不安に陥られました。港区では一定の条件の人には1ヵ月500円でレンタルできる助成制度が作られました。渋谷区はつきりませんでした。区の格差を感じます。

すがの 私も相談を受けました。歩行はできるのだが、立ち上がるにはどうしてもベッドが必要な方がいました。しかし、買い取りも、自費レンタルもお金が用意できない。去年の11月区議会が救済制度をとりましたが、区は「一律には取

り上げない」というだけ。必要な人が安心してベッドを利用できるように助成制度の実施をめぐります。

松永 比較的軽度の人利用や、認知症の方の見守りなども介護保険を使えなくなってしまう。国は、介護保険を使いすぎだといいますが、軽度の方の見守りを厚くすることで悪化させないできたことを評価すべきです。サービスを取り上げられた利用者さんの怒りはケアマネやヘルパーさんに向けられ、板ばさみになった私たちは、切ない思いをしています。

松永 要介護認定調査にもかかわるようになりました。

また、「ケアマネ難民」という事態が起きています。区から事業者名簿を渡されても、利用者さんやご家族が探すのは大変です。うちでは受け持ち限度いっぱいまで引き受けられなくても、状況をよく伺ってご紹介してはいますが、みなさん本当に苦労されている。区は、もっときめ細かに対応すべきです。

松永 要介護認定調査機関でリハビリを受けたい患者さんのなかには、4月1日から急にリハビリを受けられなくなりました。

松永 渋谷区は難病の方たちへの対応も港区にくらべ悪いです。嚥下障害、排痰困難

と思います。

また、去年4月の診療報酬改定で、リハビリ制限に直面させられました(措置期間最大180日)。他の医療機関でリハビリを受けていた患者さんのなかには、4月1日から急にリハビリを受けられなくなりました。

また、去年4月の診療報酬改定で、リハビリ制限に直面させられました(措置期間最大180日)。他の医療機関でリハビリを受けていた患者さんのなかには、4月1日から急にリハビリを受けられなくなりました。